

|  |  |   |   |
|--|--|---|---|
| 活動名  | 難病の子どもとそのご家族の東京旅行支援事業  | 団体名称  | 公益社団法人ア・ドリーム・デイ IN TOKYO  |
|  |  | 活動テーマ   | 子どもの健全な育成を支援する活動  |
|  |  | 活動の目的   | ⑤障がい、難病の子どもの支援活動  |
| ■申請書の活動概要<150~200字>  |  | ■申請書のスケジュール   | ■各スケジュールごとの活動内容   |
| <p>複数の医療関係者の協力(病状による旅行の可否の審査、緊急時の救急搬送受け入れ)により、私たちは過去に70名の難病児とご家族を東京へ招待してきました。人工呼吸器など医療デバイスが必要な病児の旅行はご家族だけでは実施が困難なため、今後も重症児の受け入れに特化していきよう、小児科・救急救命に携わる若手医師によるボランティア参加を促すことが不可欠だと感じています。また、医療従事者向けのパンフレットを作成して学会等の場で配布することで、裾野の広い参加と会員入会を呼び掛けることが可能になり、より安定的な事業の維持・拡充をします。</p>   |  | <p>1) 重症児の移動に医療従事者が同行<br/>2) 留意点の洗い出し<br/>3) パンフレット作成・配布<br/>4) 小児慢性特定疾患の学会出展<br/>5) ボランティアに参加する医療従事者の拡大<br/>6) SNSでの発信</p>   | <p>1) 病児とご家族の現状を把握・理解(フィージビリティ・スタディ)<br/>2) 留意点の洗い出し、内容を取りまとめてパンフレット作成(1000部)<br/>3) 作成したパンフレットを関係医療機関に配布する<br/>4) 学会ブースから医療従事者へ広報・参加の呼びかけを実施<br/>5) ボランティア参加してくれる医療従事者の人数を増やし、2017年度末までに移動時同行医療スタッフを5名確保する<br/>6) SNSで本事業の内容を発信、ページの「いいね!」を200獲得する</p> |
| ■活動目標  | 医療器具が常時必要な病児の旅行支援に特化し、類似の他団体との棲み分けをする。小児科・救急救命に携わる若手医師によるボランティア参加を促す。医療従事者向けのパンフレットを作成する。          |   |   |
| ■長期成果  | 医療従事者のボランティア参加人数を増やし、ご家族だけでは旅行が難しい医療器具を使用している病児でも、医師やパラメディカルスタッフのボランティア参加を促すことで社会への参画が可能になる仕組みを作る。 |   |   |
| ■活動風景  |  |   |   |
|    |  |    |   |
| 飛行機内のストレッチャー(簡易ベッド)設置の様子   |  | 病児の医療器具の最終調整をする小児科医師  |   |
|  |  |   |   |
|  |  | 病児の様子を機内で確認中の医師   |   |
| ■上期の成果と下半期に向けた改善点  |  | ■実施体制   |   |
| <p>1) 現在は2名の救命救急医が重症児の飛行機移動に同行ボランティアをしており、希少難病児とご家族の現状の理解は進んでいる。<br/>* 病児の個人情報をもとより、病名や居住地もセンシティブな取り扱いが必要なため、広く配布する書類に書き込める内容は限定的であることに気づいた。</p> <p>2) 医療従事者がボランティア参加をする際の留意点洗い出しはできたものの、<br/>* 内容をパンフレットに記載する方法だとご家族が不安になることが懸念される。参加医師にのみ別途資料を準備し、口頭で説明・理解を呼びかける検討が必要に。</p> <p>3) パンフレットの作成自体が難しく、関係医療機関に配布するパンフレットは<br/>* 団体概要に近いもの、ボランティア参加を検討してくれる医師には別途の資料をあつらえる必要性に気づいた。</p> <p>4) 作成したパンフレットを携えて、本事業の対象となる小児慢性特定疾患の学会にブース出展を行い、医療従事者への広報・参加の呼びかけを行う。<br/>* 病児の居住地の主治医など地方在住医療者の参加は同地域の子どものサポートに限定される。重点エリアや関東の医療者への呼びかけに絞るなど、工夫を要する。</p> <p>5) 事業にボランティア参加してくれる医師は現在2名。仙台の訪問看護師1名も東北エリアの子どもの送迎に参加してくれる可能性が生まれた。<br/>* 2017年度末までに5名を確保することを引き続き目標とする。</p> <p>6) SNSで本事業の内容を発信し、ページへの「いいね!」は現在184となり、200獲得までに引き続き呼びかけ、協力を依頼する。</p> |  | <p>1) 医師からの意見集約、他の医師への参加依頼の協力<br/>都立小児総合医療センターの小児科医師2名</p> <p>2) 学会への出店と医療従事者へのアプローチ<br/>■実際の東京旅行の往復路に同行してもらった医師と内容を審議し、医療従事者向けのパンフレットを作成する。→別の資料の準備を検討。<br/>■作成後、小児科学会(例年4月に実施)、小児科系の分科会にブース出展し、来場する医療従事者向けに参加と協力を呼び掛ける。<br/>→4月の学会は費用の負担が大きく参加が難しいため、11月の小児血液・がん学会など、複数の候補を検討する。</p> <p>3) WEB・SNSでの情報発信<br/>■事務局責任者1名、WEB統括1名で情報を管理。<br/>→もう1名、WEBボランティアの参加を検討中。<br/>■WEBに御社ロゴマークを掲出し、本事業へのご支援を明示する。現在のメンバーで臨機応変なWEB対応が難しいため、サーバーの載せ替えやロゴ掲出作業のできるボランティアに協力を依頼する。<br/>■SNS(Facebook)にて本事業の進捗を随時記載。<br/>■SNSの「いいね!」を200獲得し、未来のクラウドファンディング実施時の呼びかけ先とする。</p> |   |
| 〒141-0021<br>(住所)東京都品川区上大崎3-10-59-202<br>(団体名)公益社団法人ア・ドリーム・デイ IN TOKYO<br>(ホームページ): <a href="http://guesthouse.or.jp/">http://guesthouse.or.jp/</a>  |  | 助成金額 500,000円   |   |
|  |  | 助成期間  |   |
|  |  | H29.9.1~H30.8.31  |   |

※長期成果とは、活動目標に向かって継続的な事業を進める中で将来得られる活動成果とします。